

# 会報

栃木県中学校長会

発行日 昭和44年1月10日

## ◎会長あいさつ

長野 祐 寿

### 第五回栃木県中学校教育

### 高揚大会の状況

△とき 昭和四十三年十一月五日

(火) 前十時より

△ところ 栃木会館小ホール

△大会順序

- 1、開会のことば
- 2、君が代斉唱
- 3、会長あいさつ
- 4、来賓祝辞
- 5、議長団選出
- 6、研究討議

(1) 研究発表

○中学校教育を推進するための人材確保について

喜連川町立上江川中学校長

塚原 公司

○中学校教育の近代化をはかるための対策について

鹿沼市立西中学校長

大橋 渡

○学校と家庭・社会の協力体制促進のための対策

佐野市立城東中学校長

小野塚 政治

- 7、宣言 決議
- 8、万才三唱

昼 食

後一・二〇〇三・〇〇

- 9、講演

○今後の中学校教育の展望

宇都宮短期大学副学長

須賀 淳先生

- 10、閉会のことば

第五回栃木県中学校教育高揚大会は明治百年の意義ある年を迎え、十一月五日(火)午前十時から宇都宮市の栃木会館小ホールで、五月女県議会副議長、鈴木

教育長ら来賓十人をはじめ、県内中学校長、正副P・T・A会長ら約四百人が出席して開かれ、中学校教育の伸展充実について協議し、さらに午後は「今後の中学校教育の展望」と題する宇都宮短大副学

長須賀淳先生の講演があり盛会裡に終了した。  
以下大会順序の要点を報告する。

本日ここに県議会、県教委をはじめ、多数の来賓の方々のご臨席をいただき、P・T・A幹部各位とともに、第五回栃木県中学校教育高揚大会を開催し得たことはまことに喜びにたえません。昨年は中学校創立二十周年を記念し、県教委並びに校長会主催で、これが記念式典を開催し、中学校教育二十年の歩みを顧りみ、先人の努力に感謝するとともに、あらためて中学校教育について考え、覚悟を新たにし、事業の一環として、「栃木県中学校二十年史」を刊行した。本年は明治百年にあたり、今日の日本のりっぱな発展の背後に、教育の力が大きく働いていることを知り、教育にたずさわるものとして大きな喜びを感じている。しかしながら諸情勢を考慮に入れたとき、手放しでは喜べないものがあることを痛感する。現時点を展望したとき

においても、本県中学校教育の正常化を一層強化推進しなければならない。教師の問題にしてもその資質を向上し、使命に徹する優秀なる人材を確保しなければならぬ。それがためには待遇の改善がぜひとも必要である。児童・生徒を捨てざり、鉢巻をして赤旗をふるう近県の教員より、正常化されている本県教員の給与その他の待遇が下まわっているのはきわめて遺憾なことである。

日本の教育界もまだ安定していない。本県教員が全国教員の中核となつて、この危機を開発しなければならぬ。そのためには給与待遇をよくし、優秀なる人材をあつめなければならない。本県知事、県議会、教育長は教育を三大施策の一つにかかげている。教育栃木の名が全国に上る日も近いであろう。我々のこの考えに対し、県当局の関係の方々がよくこれを理解し、努力されていることは、義務教育課を設置し、義務教育推進の中核としてしていることでもあきらかなことである。

#### 1、給与制度の問題

#### 2、中学校設置基準の問題

#### 3、標準法の完全実施の問題

等、幾多の問題をはらんでいる。本県



教育は未来を創造するものである。明治の先覚者は今日の隆盛をつくりあげたのであるが、我々も自覚をもって、将来の日本の基盤を作るべく精進することを誓うものである。今後とも皆様方のご援助をお願いしたい。

**祝 辞**

来賓の祝辞として五月女県議会副議長、(議長代理)鈴木教育長、市町村教委代表として大田原市の伴教育長、市町村長会代表として、足尾町の鈴木町長各位の祝辞がありました。謹しんでお礼を申しあげるとともに紙面の都合上五月女県議会副議長並びに鈴木教育長の祝辞の要旨をかかげます。

**◎五月女県議会副議長**  
(議長代理)

ただ今の長野会長の挨拶は切々として胸にせまるものがあります。給与待遇については大野議員、氏家議員らともよく協議し、充分期待にそいたい。全国にさきがけ、困難な正常化を推進されたことについては、深く敬意を表します。正常化の観点はむずかしい問題で、正と反の間の合の方向によってつかまなければならぬと思う。本県は偏向教育でなく、

正しい方向については、現に社会に問題をなげかけている大学紛争の根底におけるものが悪平等観によるものであることを考えて、さらに努力してほしいと思います。

師弟間に秩序がなくなつては、もはや教育はなりたたない。師道の確立、教師の使命観の確立は、なんといつても大切である。あの紛争の状態を見ても、人の師となることのむずかしさをつくづく考える。キリストは「人の師となることはむずかしい」と言っている。が要するに教育は先生の人間問題である。日常の研修により、一そう人格と資質の向上に努めていただきたい。人間は学問ばかりでなく、何か一つのものごとを徹すること、何か一つのことのみに徹すること、が尊いのである。会長さんの使命観に徹するお話には同感である。私のすぎな禪の句に「尋常一様窓前の月、僅かに梅花あれば……」はその辺の感じを示すものである。議会関係当局と連絡協議し、諸君の要請に応えるよう努力します。本県が全国有数の教育県となるよう努力されることを希望します。

**◎県教育委員会鈴木教育長**

本県教育は秩序ある正常な教育活動が行われている。これは第一線現場にある

諸先生の自覚と努力によるもので、別してご列席の管理職にある校長、教頭先生のご熱意、ご努力の賜と厚くお礼申し上げます。この精神を堅持して、ますます本県教育のためご尽瘁あらんことをお願いし、併せて次のことを要望いたします。

- (1) 変転急な社会状況が生徒に悪影響を与えないよう指導されたい。
- (2) 高校入試準備を自粛されたことは敬意を表する。生徒の適性指導に努められたい。
- (3) 中学校の教育課程の改訂により、中学校教育の内容方向が示されたので、これらに対する研究を充分されたい。本県教育の発展のため意を同じくし、共に努力されたい。正常化された本県が給与等において近県におとすることは、ことに相すまぬことである。この他の条件も克服して、一歩々々前進し、最善の努力により諸氏の誠意に応えたい。標準法についても、不合理の是正(特に小規模校)に努力したい。義務教育課も誕生したのであるから、その意味のあらわれよう努力したい。最後に本県教育界の発展をのぞみます。

**◎研究協議したことども**

議長団として栃木東中の木村由雄校長、古里中の玉生勸造校長、氏家中の高瀬晃校長が選出され司会役を務めた。研究発表は大会順序にしたがって、塚原公司校長(上江川中)、大橋渡校長(鹿沼西中)、小野塚政治校長(佐野城東中)が発表した。要項は大会要項に印刷されているので発表の要旨を採録する。

**(A) 中学校教育を推進するため人材確保対策について**

那須郡上江川中学校長 塚原 公司

最近の新採用教員を見ると、過半数が女性である。女性が多いということは、優秀な男性が教育界にそっぽをむいているということである。なぜ優秀な人材が来ないのであるか。給与が悪いからであるとの答が返ってくる。教師自身使命感に徹し、教育現場に邁進しているであろうか。世間では教師をどう見ているであろうか。資料1(別刷)による教師の信頼は失われつつある。ただし本県北部の資料によると七〇%のものが教師を信

頼している。教師自身単なる労働者ではないと自覚しているものが、七七八八ある。高校生の教師に対しての評価は社会的に余り高く評価していない。一般社会人にしても、教師に対して余り高く評価していない。

一方教師自身の不満も注意を要する。(資料5(別刷))このような点からしても

- (1) 職員定数増の必要がある。その時間を研修に充分あてるべきで、あてがわれた研修ばかりでなく、教職のみの研修にとどまらず、幅広い人間性を目ざしての自主的研修を育成指導すべきである。そのためにも是非教育研修センター設立が必要である。
- (2) 管理者としての反省が必要である。人間性豊かな、安心して頼られる管理者となるべく研修すべきである。一方教員の不安感を一掃するためにも、校長の基本権が確認されるべきである。

また給与の改善を行い、安心して教育に熱中できる状態にすべきである。このことは、ひいては優秀な人材を確保することにもつながる。また単なる労働者ではないので、現行労働法にはなじまない、幾多の労働条件が生じている。したがって現行の労働法からはず

れた特別法を制定すべきである。

**(B) 中学校経営の近代化をはかるための対策について**

鹿沼西中学校長 大橋 渡

日本の近代化は西欧の二、三倍のスピードで、世界に比類のない進歩を示した。特に戦後敗戦の疲弊の中から立ち上り、再建繁栄の実を示したのは、教育の力に負うところ大である。経営の近代化はどうするか。次のことが考えられよう。

- (1) 機械化して能率をあげる。
- (2) 会議決裁、起案、処理の工夫をする。
- (3) 勤務時間の割り振りところが厳守。
- (4) 中学校教育は高校の後期中等教育に対する前期中等教育である。万事高校に準ずる行き方でやるべきである。例えば教員の定数増加、予算旅費等は高校と同率に増額を配慮すべきである。

**(C) 学校、家庭、社会の協力的体制促進のための対策について**

佐野市立城東中学校長 小野塚 政治

○補習廃止にもなって、それに対応

する家庭の生活設計が立てられているか。テレビ、レジャー等周囲の状況に振りまわされていないか。睡眠時間、お手伝い、家族との話し合い等充分な対策が立てられているか。

○進路指導は正規の学級活動の年間計画中で、とびとびに行われているが、教科書がないだけに適当にやっしてしまわないだろうか。人間を育成するには進学の五教科以外の四教科の内容こそ重要である。

○公費負担と税外負担  
標準教育費を市町村教委で立案し、不足額をP.T.Aで補うという形式にした方がよい。東京都のP.T.A負担(軽減)については、十年の歩みの積み重ねの研究結果できたものである。P.T.Aの組織運営については、P.T.A自体で研修し、指導を教師の方に頼むようにした方がよい。

(2) 青少年の健全育成について、健全育成が大切であって、非行対策に走るのは本末顛倒である。健全育成は狭い地域でもできるが、非行対策は広い地域、即ち社会全体の協力的体制が整わないとできない。狭い殻の中に閉じこもらず、ふだんから関係機関、施設と協力し援助を仰ぎながらやる必要がある。

**(D) 研究発表(提案)に対する発言**

(1) 小野塚校長の発表の中で、進路指導を適当にやっているとされたが、公の場所のことなので、適当とはどういうことかもう一度説明していただきたい。

○小野塚校長  
舌足らずの説明で申し訳ないと思いますが、校務等がいそがしい場合に、教科書のない領域では、教材研究が充分できないので、よいかげんになりやすいから校長はよく指導する必要があるとの意である。

(2) 宇都宮市立清原中須藤武校長よりの要望  
教育近代化について、機械化を図る焦点はなにか。それは学習指導の効果の向上にある。本県は他県と比べて、あまりにこの研究において格差がありすぎる。これらに対する研究会をつくって、どんどん研究をすすめるべきである。

(3) 下都賀郡南大飼中君島光夫校長よりの要望  
学習方法の機械化の組織については、シート学習研究会を育てるのがよい。群馬県においては研修会でシート学習研究会が中心になって進めている。本県でも県立の研修所をつくって、研究



をすすめるとよい。

(4) 宇都宮市立陽西中学校 P・T・A 中学校の生徒を何とかしようとして来たれているこの大会に、各地区の教育委員が出席してないのは残念である。よりよい教師を得るために、待遇の問題もよい。しかし宇都宮市においては、雑務が多いというので司書見習をおいているが、これが自身の保障がない。校長さんは自分自身の待遇改善もさることながら、こういう方面にも努力してもらいたい。定年までは数年あると思うが、大いにがんばってほしい。

高揚大会が年間行事ではなく、本当に実のあるものにしてほしい。要望事項は関係者の協力体制で臨むことが効果的である。祝辞などは最後にやるようにしてもらいたい。

○長野会長のこたえ

参加人員の関係で市町村の教育長には案内状がでていますが、各教育委員さんには出してありません。司書見習の身分については校長会で研究する。

この後宣言決議の採択に入り那須郡烏山中の小泉校長の司会により宣言決議文の提案があり、全員一致でこれを採択し、近日中午に県教委や県当局に対し陳情することを決めた。

宣言

本県中学校教育は発足以来二十二年、今日輝かしい発展を見るに至った。これは関係当局の絶大なご援助のもと、先輩各位の献身的な努力と、これを支えて協力をおしまなかつた P・T・A の力によるものと、まことによるべきにたえない。

決講

一、中学校教育の正常化を一そう推進する。 二、中学校経営の近代化に努める。 三、協力体制の強化促進に努める。

昭和四十三年十一月五日 第五回栃木県中学校教育高揚大会

講演

今後の中学校教育の展望

宇都宮短大副学長 須賀 淳先生

戦後新しい教育は次の三つの精神にそって行われた。

- (1) 教育基本法の目標精神にのっとり人格の完成をめざした。 (2) 教育の機会均等の原則 (3) 男女共学制の採用

六・三制教育制度の実施については、昭和二十年代、行政制度の改正、教育委員会制度の発足等があった。昭和三十年代は反省の時代、昭和四十年代は内容安定、充実の時代で学力向上対策が活発に行われた。各種研究団体結成、教材教具の整備、指導体制の確立等、教育研究もさかんであった。昭和二十七年平和条約発効により三十年に入り、主体性をとりもとそうとする気運になり、三十三年に

教育は課程が改訂され、道徳が正式に位置づけられた。四十年代になり教育界も安定してきたので、研究の焦点は再び現場第一線にむけられ、学校自体を直視しようとする動きになった。さて学校経営を支える柱は、

- ①教職員定数、②勤務時間、③教育課程

で、この三者が三位一体とならなければならぬ。今回の改訂は科学技術の革新、経済の高度成長等により、日本の国際的地位が向上したのでそれに即応するため、将来の国民資質の基礎を充実することをねらって、小中学一貫した方針で改訂されることになった。昭和三十三年の改訂では、独立日本の国情にそうもの

として、

- ①道徳の重視、②基礎学力の向上、③科学技術教育の向上、④地理、歴史教育の改善充実、⑤情操陶冶、⑥身体の強健、⑦安全指導充実等であったが、今回はその基礎の上に立って、十年間の体験から得られたものを補ったのである。中学校においては高校との関連を考慮の要があり、最近の生徒の動向である、情緒不安定、身心のアンバランス、自己中心の傾向などは正をはかる必要があり中学校教育自体にも解決を要する問題があった。

今回の改訂においては小・中学校教育のねらいをいかにするかについて多くの時間を要した。中学校においては小学校教育の基礎の上に立って、生徒の心身の発達に即する教育を施し、人間の完成をめざし、民主的、平和的な国家および社会の形成者としての必要な資質を養う。基本的事項としては

- I、望ましい人間形成の上から、調和と統一のある教育課程の編成 ①体力の増進、②情操陶冶、③強い意志の育成、④国家社会に対する理解と愛情の涵養等知育、徳育、体育三者の調和のとれた、いわゆる全人教育をねらっている。 II、指導内容を基本的事項に精選、集約する。 III、個性、能力、適性に即する教育の徹底をはかる。 IV、授業時数は指導の内容から決めるのが正しいと思われるが、実際は生徒の負担、教師の勤務量から決められる。 中学校は一一九〇時間(34時×35週)を標準として、各校の創意工夫にまかせられる。ただし年間の登校日数を二四〇日以上と定めた。一単位時間中学校は五



○分(四五分でもよい)

教育課程改訂にあたり、反対勢力からの批判に対する考え方として次のようなものがある。

○憲法、教育基本法違反、戦争肯定、中央集権等々の批判がある。が民族の文化に囲まれて育っている日本人が、家も国家もない状態におかれてよいであらうか。これは憲法以前の問題である。

○社会科の神話については、国民としての自覚と誇りを持つ人を育てたい。国籍不明の社会科とならぬためにも、諸外国とも自国の特長を述べて誇りを持たせるように指導している。

○文部省は何等強圧や統制するためではなく、各学校や現場の獨創性を尊重する考えである。天皇や皇室ということばがでてくるが、これは天皇の地位を明確にし国民との結びつきを親密にすべきであるとの考えからである。以上の趣旨で中学校指導要綱も進んでいると考える。心からりっぱな中学校の新しい指導要綱の完成をお祈りする。

### 栃木県中学校長会

#### 役員一覽

- 会長 長野 祐寿(足・第二中)
- 副会長 北条 静男(宇・陽北中)
- 永嶋 俊二(芳・益子中)
- 小泉 忠(那・烏山中)
- 大高德治郎(佐・西中)
- 監事 大塚 義夫(上・今市中)
- 西川 正二(下・王生中)
- 福田 寛(塩・矢板中)
- 局長 北条 静男(宇・陽北中)
- 庶務 野沢 平古(宇・横川中)
- 会計 戸田 博亘(宇・星ヶ丘中)
- 部長
- 研修部 永塚 正留(宇・一条中)
- 編集部 波多 野昇(宇・陽南中)
- 進対部 坂本 徳重(宇・陽東中)
- 調査部 刑部喜三郎(宇・泉ヶ丘中)
- 職対部 岡村喜与治(宇・第一中)

#### 理事

- 修学旅行部 塚田 武男(宇・陽西中)
- 福利厚生部 井田 福次(宇・旭中)
- 宇都宮地区 北条 静男(宇・陽北中)
- 河内 " 玉生 勸造(河・古里中)
- 上都賀 " 大出 好三(鹿・東中)
- 芳賀 " 永嶋 俊二(芳・益子中)
- 下都賀 " 尾林 栄次(下・大平中)
- 栃木地区 木村 由雄(栃・東中)
- 小山 " 和気 道(小・小山中)
- 塩谷 " 高瀬 晃(塩・氏家中)
- 那須北 " 佐藤 三夫(那・大田原中)
- 南那須 " 小泉 忠(那・烏山中)
- 安蘇 " 真下 時滋(安・新合中)
- 佐野 " 大高德治郎(佐・西中)
- 足利 " 岡村喜与治(足・第一中)
- 足尾 " 谷口寅次郎(上・足尾中)

#### 編集後記

昭和四十四年の新春を迎えておめでと  
うございます。昨年は明治百年を迎え、

現在の日本の隆盛を見るにつけても、先人の偉業と偲び、本県中学校教育の充実、発展を企図してまいりました。

本号は昨年十一月に行われた第五回本県中学校教育高揚大会の状況を各方面に伝え、中学校教育の重要性とその問題点を再認識していただき、いやが上にも本県中学校教育の飛躍的發展を希うためのものであります。なお本大会の記録をまとめて下さった記録係の鈴木信校長その他の方に深く、感謝申し上げます。  
(陽南中、波多野記)



発行人 会長 長野 祐寿  
(足利市立第二中学校長)  
編集人 編集部長 波多野 昇  
(宇都宮市立陽南中学校長)  
印刷所 三共印刷株式会社